

第1章 総則

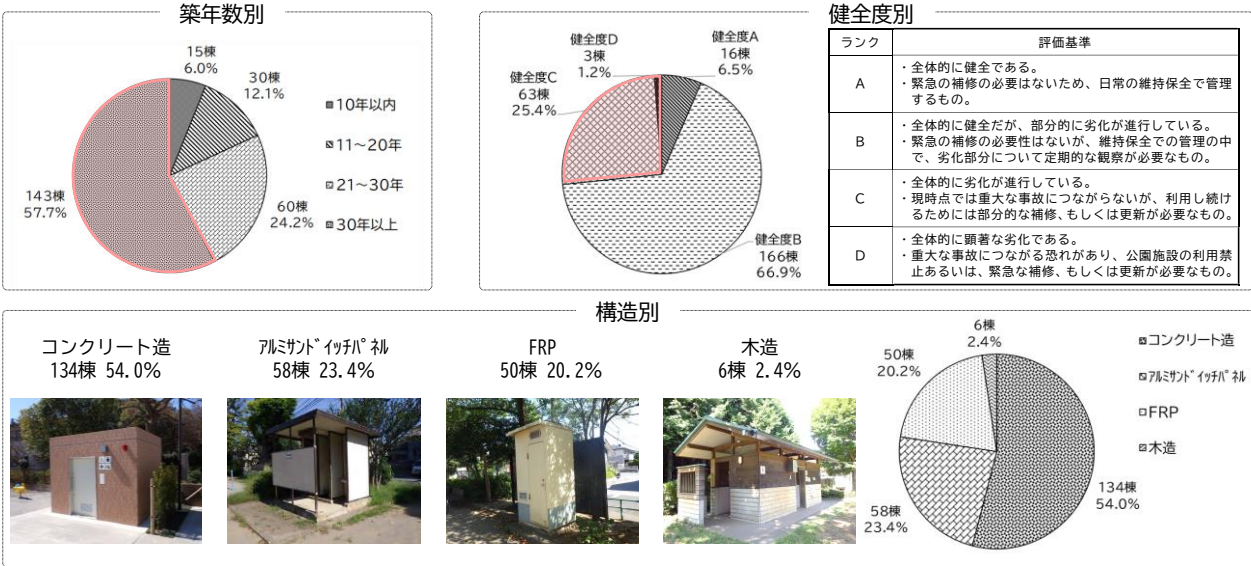
- 1 目的 本取組では、公園トイレの快適な利用環境の形成に向けた基本方針とともに、今後概ね10年間で進める計画的な補修及び改築の方針を定めるものである。
- 2 対象 身近な公園トイレ248棟（226公園）

第2章 内容

1-1 公園トイレの現状

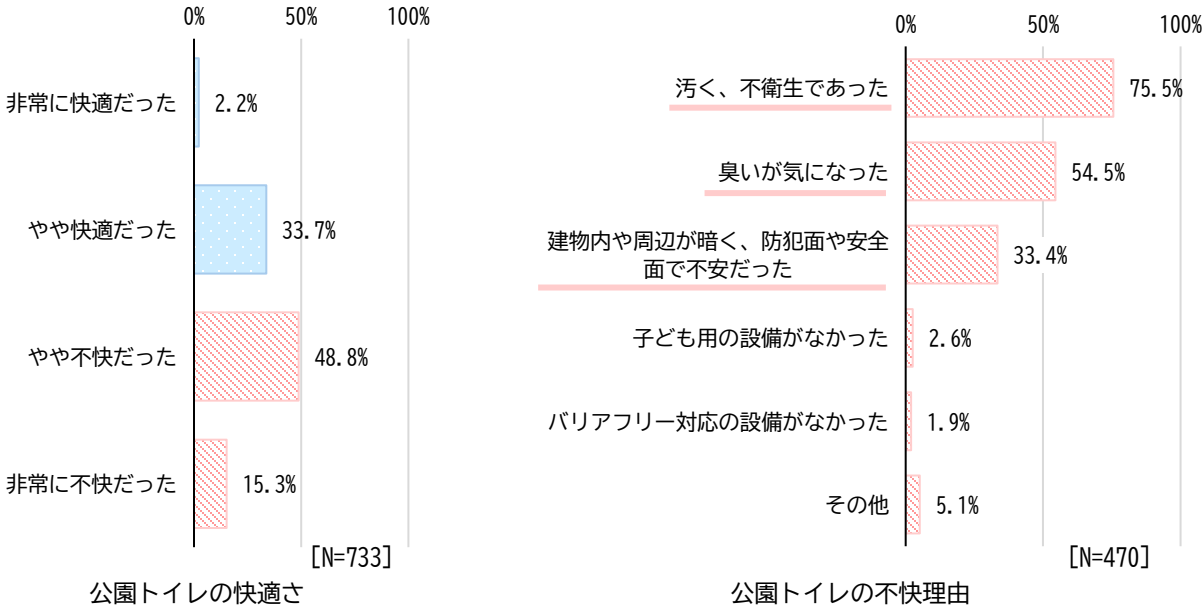
(1) 公園トイレの健全度調査結果

過年度のトイレの健全度調査をもとに、公園トイレの現状を把握した。公園トイレは、設置から30年以上経過したものが全体の57.7%に上り、健全度がCまたはD判定となる状態のよくないものが26.6%を占めることが分かった。老朽化した公園トイレへの対応が必要となる。



(2) 公園トイレに関する市民意識（令和5年度（2023年度）のWEBアンケート結果の抜粋：回答者数 N=1,737）

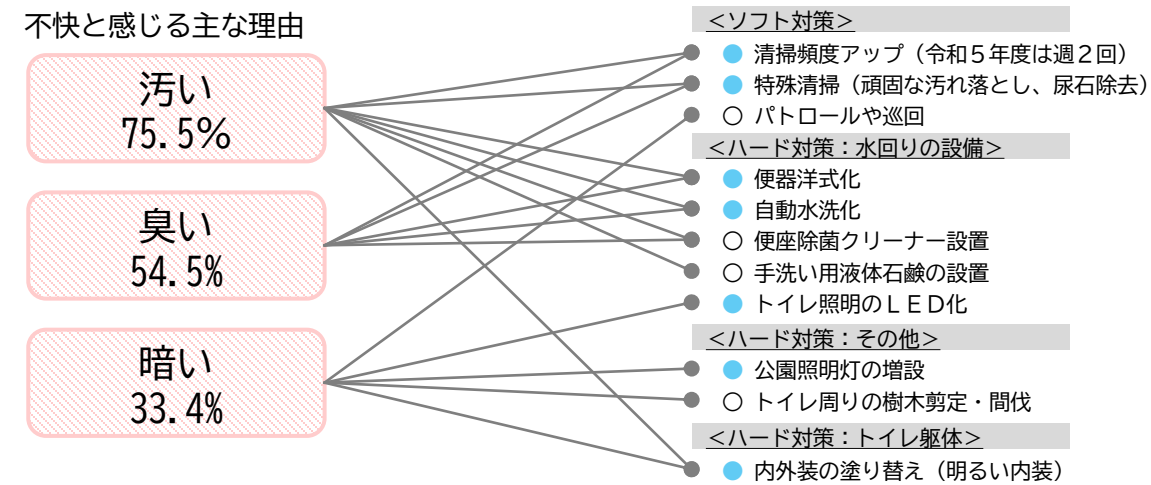
公園トイレの快適さは「非常に快適」及び「やや快適」の回答が35.9%であった。
一方で「非常に不快」及び「やや不快」の回答が64.1%であった。不快と感じる理由は「汚く、不衛生であった」が75.5%「臭いが気になった」が54.5%「建物内や周辺が暗く、防犯面や安全面で不安だった」が33.4%であり、これらが突出していた。こうした不快理由は、一般に3K（汚い、臭い、暗い）と呼ばれ、公園トイレをより快適なものとするために3Kの改善を進めていく必要がある。



第2章 内容

1-2 公園トイレの快適化に向けた対策の検討
(1) 市民意識調査に基づく対策メニューの検討

不快感の改善に向けて、望まれる対策をWEBアンケートから把握した。●は多く望まれた対策。



1-3 公園トイレの快適化に向けた基本方針
(1) 基本方針

3Kの改善に向けて、市民から多く望まれた対策を中心に、**ほぼ全ての公園トイレで進める「ベースアップ対策」**と**老朽度などを考慮した「個別対策」**とを定め、公園トイレの快適化を進めていく。

ソフト対策		※ほぼ全ての公園トイレを対象 ベースアップ対策	コンクリート造	アルミサント®イチハパネル	FRP	木造	約200棟 ※トイレ利用者が相対的に少ない15人未満/日のところを除く
【清掃】	清掃頻度UP		●	●	●	●	
	特殊清掃（小便器など）		●	●	●	●	
【啓発】	マナー向上		●	●	●	●	
ハード対策			コンクリート造	アルミサント®イチハパネル	FRP	木造	
【設備】	便器洋式化		●	●	●	●	
	手洗い自動水洗化		●	●	×	●	
	LED化		●	●	●	●	
【周囲】	樹木剪定・間伐	●	●	●	●		
【躯体】	補修 ・内外壁の塗り直し	※老朽度などを考慮し対象選定 個別対策	●	●	×	×	約50棟 健全度Cで建替えをしないところ
	補修 ・床ドライ化		●	●	×	●	
	建替え（更新）		●	●	● （張り取り式は、基本的に更新しない）	●	
						約20棟 健全度D・Cで耐用年数を超過しているところを中心	

(2) 目標

指標	令和6年度 (2024)現状	令和10年度 (2027)中間	令和15年度 (2033)目標	備考
公園トイレが快適と感じる市民の割合	35.9%	45.0%	50.0%超	現状値は、令和5年度(2023)のWEBアンケート

参考資料：老朽度を考慮した個別対策

2 公園トイレの補修及び改築に関する基本方針

補修対象のトイレが50棟近くあり、更新対象となる公園トイレも20棟近くあるため、計画期間内では総額6億円以上の事業費が必要となる。対策費の支出が、特定の年度に偏ることがないように、事業費の平準化を図りつつ、補修及び更新を着実に進めながら、施設の延命化を図っていく。

（対策費の平準化）

- ① 健全度がD判定であって、使用見込み期間を超過しているトイレの更新を早める。
- ② トイレ利用数が多いところを優先し、公園利用者数、公園種別などを考慮して調整。
- ③ 更新は2棟/年を目安に設定。
- ④ 補修は令和7年度（2025年度）までは2棟/年、以降は5棟/年を目安に設定。
- ⑤ 行政区単位で対象が分散するように適宜調整。

※ 計画であって、状況によって変更となる場合がある

（標準的な更新パターン）

- ・トイレの更新にあたっては、公園の種別やスポーツ施設の立地を考慮して、トイレ更新時の標準的な更新パターンを設定した。トイレ更新時には、基本的にはこのパターンに沿って進める。

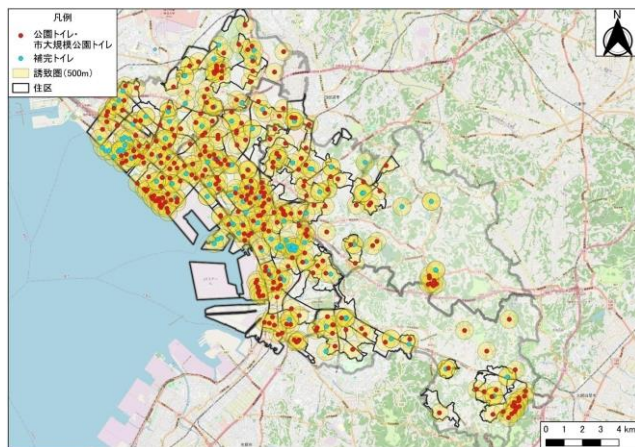
公園種別	街区公園・緑地など	近隣公園	地区公園 ※ スポーツ施設の所在する公園はこのカテゴリに含む
標準モデル			
更新タイプ	更新A	更新B	更新C
間取り	多目的トイレ 1室	多目的トイレ 1室 +小便器	多目的トイレ 1室 +男子トイレ1室 +女子トイレ1室
間取り図	 約 6m ²	 約 8m ²	 約 17m ²
整備費の目安 (プレキャスト造)	約 1,400 万円	約 1,900 万円	約 3,500 万円

3 公園トイレの配置・集約に関すること

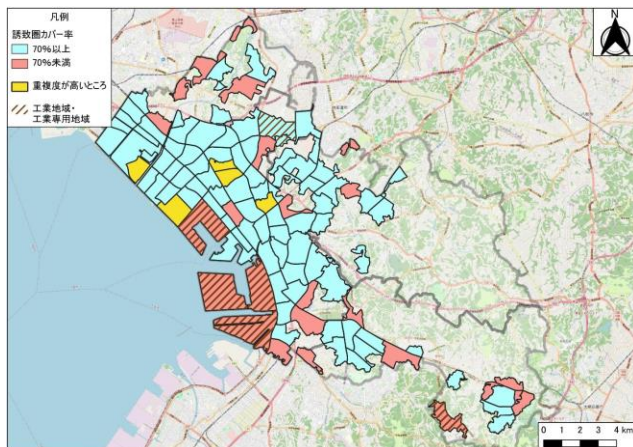
3-1 公園トイレの配置についての検討

公園トイレの配置について、公衆トイレの配置も考慮しつつ検討した。まち中のトイレの適正な配置間隔は、尿意を催してから徒歩10分でたどり着ける半径400m～500m程度が目安とされているため、各トイレから半径500mの範囲を「トイレの誘致圏」とし、本誘致圏でカバーされている部分の面積が70%以上の住区をトイレ充足地域とし、一方で、70%未満の住区を公園トイレの配置が十分でない地域として判定した。

一般に公園トイレは、整備費とともに、継続的な維持管理費の支出が必要となるため、地域からトイレ新設の要望があった場合には、トイレの誘致圏カバー率のほか、別途、地区の将来人口推計、施設の維持管理体制といった観点を考慮しつつ、慎重に対応を図るものとする。



市内トイレの誘致圏



住区におけるトイレ誘致圏カバー率

3-2 公園トイレの集約についての検討

1つの住区における各トイレからの誘致圏の重複度合いからみて、右上図の黄色で示すトイレが特に集中している住区では、地域の声を聴きつつ、トイレ集約化を慎重に検討するものとする。

これと併せて、同一公園内に複数トイレが立地している場合には、トイレ更新時などにおいて、地域の声を聴きつつ、トイレ集約化を慎重に検討するものとする。